

AMDAはアフリカやアジアの難民キャンプで人道援助活動をおこなっている。難民キャンプの人たちは母国に帰りたいが帰れず、脱出国に永住したいが、パスポートがないため一時



菅波 茂 (AMDA代表)

的な在留の形しかとれない。中途半端な人生のため概してうつろな目である。一方、世界で最も福祉制度の発達しているといわれるスウェーデンで老人の自殺率が高い。

難民キャンプの「難民のうつろな目」とスウェーデ

ンの「老人の自殺」との共通性は何かと聞かれれば、「人間の存在」に関する根本問題と答えたい。人間が究極の孤独を感じる時は自分の存在に確信を持てなくなる最もつらい時である。

ある。それは読者のページに明日の夢を描くか。と「集い」である。同窓会とかOB友の会である。参加者の顔写真と参加者による記事。人生を感じさせるほのぼのとした内容が多い。開催された場所がさりげなく宣伝されているのもいい。まず普通の市民が新聞に載ることはな

か。明日の夢を描くか。と皿として大きな役割を果たすことが期待され、この十月からは寄付に対する免税措置が導入される。新聞も受け皿として変わらざるをえない。公器の意味にたくさんの人が参加することが付記されてよい。もつとたくさんの市民が、もつとたくさんの読者が。読者のページの「集い」は今ほ小さな

# 市民参加の「集い」期待

それは次のような状況である。①だれも自分に関心を持ってくれない②だれも自分を必要とってくれない③だれも自分を覚えてくれない。

い。まして自分の顔写真といえはそつであるが。世の中の多数派であるが、沈黙をしている人たちの参加意識をどうするかというのも別な重要な役割である。

山陽新聞にはこの「人間の存在」を支援する記事がある。他紙にはない企画で

成の責任がある。そこでは主義主張が積極的に展開され、いかに現在を生き、い

「山陽新聞を讀んで」は月二回日曜日に掲載します。

(非政府組織)やNPO(民